

特集

DNP (Doctor of Nursing Practice) が 未来を切り拓く

「研究」と「実践」をつなぐ高度実践看護師の
新たなチャレンジ

DNP (Doctor of Nursing Practice) は、現場の課題を解決に導くために、エビデンスを実践に効果的に導入してケアの質を改善するプロジェクトを行います。研究者として、そして高度実践看護師として、現場の状況を的確に分析し、課題解決に適したエビデンスを探索・吟味していきます。そして、さまざまなステークホルダーを巻き込み、エビデンスを現場に実装するための戦略を丁寧に検討していきます。あわせて、エビデンスそのものの効果と同時に、実装に用いた戦略の効果を科学的に評価し、課題解決に向け、ケアの質を改善する活動を行っていきます。

研究によって得られたエビデンスをどのように実践に活かしていくのか、エビデンスをどのように現場に実装し根づかせていくのか、というエビデンスの実装に関心が高まる近年、DNP の存在意義はより一層大きくなってきていると思われます。そこで今回、エビデンスを実践に活用し、ケアの質を改善する高度実践看護師の新たなチャレンジとして、本特集を企画しました。

私たち企画グループは、わが国の DNP 課程で学んだ最初の世代にあたります。今回の特集では、前例がない中でさまざまな困難を乗り越え、試行錯誤しながら取り組んだ第一世代の DNP プロジェクトの軌跡をまとめました。わが国で初めて「研究」と「実践」の橋渡しを行う博士後期課程における科学的な挑戦の足跡を明らかにし、その成果や課題、展望

を示すことで、高度実践看護の発展を目指したいと考えます。

私たちDNPの挑戦はまだ始まったばかりですが、高度実践看護師が研究力を高め、「研究」と「実践」の好循環を起こすことにより、実践の科学である看護学の発展に貢献できるのではないかと期待しています。本特集を読者の方々と広く共有し、その実現に向けたヒントを見出していきたいと考えています。

企画：榎戸文子（医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック／

国立研究開発法人国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク）

佐藤直子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）

松本佐知子（日本赤十字看護大学さいたま看護学部，

日本赤十字看護大学大学院看護学研究科）

井出由美（昭和医科大学大学院保健医療学研究科，

昭和医科大学病院総合周産期母子医療センター新生児部門）